

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4692600028
法人名	社会福祉法人 滴々会
事業所名	グループホーム 音野舎
訪問調査日	平成20年7月11日
評価確定日	平成20年8月11日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4692600028
法人名	社会福祉法人 滴々会
事業所名	グループホーム 音野舎
所在地	南九州市知覧町2069-2 (電話) 0993-58-7181
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年7月11日

## 【情報提供票より】(平成20年6月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 6人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	11,200 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	3 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.5 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	浮辺医院 朝隈歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は当ホームをはじめとして、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンターやヘルパーステーション、訪問看護ステーション等の総合的な事業施設を有し、地域の中核的な介護福祉拠点としての機能を担っている。入居者の残存機能を活かして、自分自身の生活、役割のある生活を送っていただけるように、隣接施設や協力医療機関の支援を受けながら職員一丸となって取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の初回である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で意見を出し合いながら自己評価を行い、管理者がまとめている。評価の意義を理解し、具体的な改善に結びつくように取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回開かれ、地区代表や民生委員、行政担当者およびご家族代表の参加を得て、ホームの現状や活動内容を報告している。それぞれの立場や観点から意見を出し合い、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議へのご家族の参加や、電話連絡や面会時の声かけにより意見や要望を聞く機会を設けており、家族会も計画中である。玄関には意見箱を設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で行われるグランドゴルフや六月灯などの行事、および隣接の施設行事にも可能な限り参加して、旧知の人々と交流できるように支援している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会とのつながり」を重視した、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室や相談室に理念を掲げ、朝礼では唱和している。日々の取り組みの中で、理念に基づく具体的なケアの方法を話し合ったり、意識すべき要点を掲げたりして共有できるように工夫している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われるグランドゴルフや六月灯などの行事、および隣接の施設行事にも可能な限り参加して、旧知の人々と交流できるように支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で意見を出し合いながら自己評価を行い、管理者がまとめている。評価の意義を理解し、具体的な改善に結びつくように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開かれ、地区代表や民生委員、行政担当者およびご家族代表の参加を得て、ホームの現状や活動内容を報告している。それぞれの立場や観点から意見を出し合い、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市の担当者に質問や相談をしている。運営推進会議で来訪された際は、会議前後の時間を利用してホームでの暮らしぶりを見てもらい、入居者との交流の機会をつくっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、法人の機関誌にホームでの暮らしぶりや活動内容を写真入りで紹介している。ご家族の面会時には、新人職員の紹介を行っている。毎月の請求書発行の際に、金銭出納帳のコピーと領収書を同封している。		金銭管理体制の信頼性をさらに高めるために、ご家族による確認の証跡または関係書類の発送記録を残すなどの方法を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族の参加や、電話連絡や面会時の声かけにより意見や要望を聞く機会を設けており、家族会も計画中である。玄関には意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動のみではあるが、その際は入居者に紹介して、馴染むまでは他の職員と一緒にケアにあたり、ダメージを最小限に抑えるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各種研修や勉強会に参加したり、外部研修にも内容によって受講する職員を決めて参加させている。職員の段階に応じた計画的な研修体制づくりは、今後の課題である。	○	職員の知識や経験、立場や役割に応じて、計画的に学びの機会が確保できるような研修体制を築いていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区や県のグループホーム協議会に参加しており、同業の管理者と情報交換を行ったり、他のホームへ研修に出向くなど、サービスの質向上に活かす取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が自宅や施設を訪問したり、ホームの見学に来てもらいながら、徐々に馴染めるように取り組んでいる。入居後もご家族の同伴による帰宅や、希望に沿った外出支援が行われ、安心感を持ってもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の経験や知識を会話や日常生活の中から発見し、調理や庭の草取り、落ち葉の始末等について指導を受けるなど、人生の先輩として教えてもらう機会をつくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や身近な方からの情報を得たり、日常生活での行動や言葉から思いをくみ取るように努めており、日々の関わりの中で反映できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族から思いや意見を聴取するとともに、カンファレンスによる職員からの意見を含めて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族には会議出席を依頼し、出席できない場合は電話で要望を聴取している。かかりつけ医のアドバイスを取り入れながら、定期的および状態変化時に介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する特別養護老人ホームや訪問看護ステーション、協力医療機関などと連携を図り、多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とともに専門医受診に同行したり、職員のみ同行の場合は、受診結果をご家族へ報告するなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化および看取り介護に関する指針を説明し同意を得ており、状態変化時は、関係者を交えてその都度話し合い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に個人情報の取り扱いについての研修を受け、誓約書を交わして意識向上を図っている。個人の経過記録や情報の管理は適切に行っている。声かけの方法や対応においては、理念に基づいて入居者の誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールにとらわれずに、これまでの入居者の生活リズムを尊重している。起床や入浴の時間および食事や散歩について、入居者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人やご家族から嗜好について聞き取り、季節の食材や庭で栽培した野菜を利用しながらメニューをつくっている。食事開始と終了の挨拶当番を決めて掛け声をかけていただき、職員と一緒に語らいながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の状況をノートに記録しており、少なくとも週に二回は入っていただけるように声かけに工夫しながら支援している。入浴の日は、夜間を除いて希望に応じられるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本情報に生活暦を記載し、情報を活用しながら場面づくりを行っている。調理や片付け、洗濯物干しやたたみ方、草取りやプランターでの野菜づくりなどに組み込んでいただき、役割のある生活を感じ取れるように支援している。ドライブや墓参りなど、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩、ゴミ出し、ご家族同伴での外出など、なるべく多く戸外に出る機会をつくれるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、玄関扉に付けられたドアチャイムを活用し、外出を見落とさないように見守りの体制ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間・昼間想定火災避難訓練を実施し、法人全体の訓練にも参加している。隣接する同法人の施設職員からの応援協力も得られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材や栄養バランスに配慮した内容となっている。食事量・水分摂取量が少ない入居者については、経過記録に記載があるが、その他の入居者については今のところ記録に残してはいない。	○	法人内の栄養士に献立表を見てもらい、専門的な見地からのアドバイスを受けて、食事の質のさらなる向上に努めていただきたい。食事や水分の摂取量については、入居者の身体状態や気候に合わせた支援を行うためにも、個別の摂取状況を確認し記録に残すなど、職員間で共有しやすいうように工夫していただきたい。
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成したちぎり絵を飾ったり、七夕の飾りつけに庭に咲いた花々を飾るなど、季節を感じながら心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやマッサージ機、鉢物や位牌など、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただき、好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間がつかれるように配慮している。		